

地球惑星科学委員会SCOR分科会GEOTRACES小委員会
(第26期・第1回) 議事要旨

1. 日 時：令和6年5月24日(金) 12:00~13:00
2. 会 場：ハイブリッド会議
現地会場：北海道大学低温科学研究所(北海道札幌市北区北19条西8丁目)
オンライン：Zoom
3. 出席者：張 勁(現地)、乙坂 重嘉(現地)、小畑 元(現地)、熊本 雄一郎(オンライン)、黒川 隆司(オンライン)、小松 大祐(オンライン)、近藤 能子(現地)、坂口 綾(オンライン)、佐野 有司(オンライン)、鈴木 光次(現地)、宗林 由樹(オンライン)、高野 祥太朗(現地)、田副 博文(現地)、谷保 佐知(オンライン)、眞塩 麻彩実(オンライン)、西岡 純(現地)、則末 和宏(現地)、堀川 恵司(現地)、山田 正俊(オンライン)
欠席者：川 浩史、蒲生 俊敬、羽角 博康、八田 真理子
4. 議題等 (1) 第26期 GEOTRACES 小委員会委員の紹介
(2) 小委員会の設置趣旨および活動方針
(3) 委員長の選出、副委員長・幹事の指名と承認
(4) 議事要旨の提出に関する委員長一任
(5) 小委員会委員間のメールアドレス共有
(6) 国内外の動向(SSC、DMC、SI、「白鳳丸」航海等関連事項)
(7) その他
5. 配布資料
資料0：議事次第
資料1：第26期 GEOTRACES 小委員会委員名簿
資料2：第26期 GEOTRACES 小委員会の設置趣旨および活動方針
資料3：審議内容について
資料4-1：GEOTRACES-SSC 会議および関連事項の報告
資料4-2：GEOTRACES-DMC 会議および関連事項の報告
資料4-3：GEOTRACES-SI 会議および関連事項の報告
資料4-4：最近の GEOTRACES 関連航海の実施状況および今後の実施予定
参考資料1：委員会等の議事要旨の公開等に関するガイドライン
参考資料2：メール審議の実施について
参考資料3：北大低温研研究集会「縁辺海を繋ぐ物質循環研究にむけて」プログラム
6. 議事概要
(1) 第26期 GEOTRACES 小委員会委員の紹介

資料1の小委員会名簿に沿って自己紹介を行った。職属・職位の変更があれば、随時張委員に連絡することとする。

(2) 小委員会の設置趣旨および活動方針

張委員より、資料2「GEOTRACES 小委員会の設置趣旨および活動方針」に記載の設置目的、審議事項、設置期間についての説明があり、確認の上承認した。

(3) 委員長の選出、副委員長・幹事の指名と承認

小畑委員から、本小委員会の委員長として、日本学術会議連携会員である張委員が推薦され、小委員会で承認された。続いて、張委員長から小畑委員を副委員長に、国際 SSC の近藤委員と堀川委員を幹事に指名し、いずれも小委員会で承認された。

(4) 議事要旨の提出に関する委員長一任

張委員長から、議事要旨は学術会議 HP に掲載されるため、委員会開催日から8週間以内に議事要旨を事務局へ提出する必要があることが報告された。議事要旨を速やかに提出するために、幹事等による議事要旨作成、委員への回覧を行なった後、微修正を含めた最終的な承認について、委員長に一任していただきたいと提案があり、承認された。

(5) 小委員会委員間のメールアドレス共有

今後の小委員会でのメール審議等にあたり、円滑なコミュニケーションを図るため、BCCでのメール配信ではなく、各委員のメールアドレスが見える形（メールアドレスの共有）でのメール審議をさせていただきたいと委員長から提案があり、承認された。

(6) 国内外の動向（SSC、DMC、SI、「白鳳丸」航海等関連事項）

SSC (Scientific Steering Committee) meeting 2023 について、近藤委員より報告（資料4-1）

2023年9月に行なったSSC会議では、各国のSSC委員から過去1年間の研究業績活動のレポートについて報告があり、日本から参加した近藤委員も日本の研究業績を報告した。また、GEOTRACESの枠組みで実施された研究成果を論文化する場合、論文のキーワードにGEOTRACESを含めるよう要請があったことが報告された。さらに、GEOTRACESの活動がSCORのサポートを受けていることから、謝辞にSCORのサポートを明記して欲しいという要請があることも報告された。

SCORへの謝辞について、宗林委員から、どのようなサポートに対しての謝辞を記載すればいいのか？と質問が出た。GEOTRACESのデータ管理やワークショップ等様々な活動がSCORの予算サポートで実施されていることをご理解いただきたいと、張委員長から補足説明があった。

本件に関するGEOTRACESホームページ内での記載：

<https://www.geotraces.org/help-us-to-acknowledge-scor-funding/>

また、Early Career Scientist (ECS)委員会設置についての議論が始まっていることについて

も報告があった。

2021年からSSC委員を務めている近藤委員は、さらに3年、2026年までSSC委員を務めることが報告され(1回更新の計6年できる)、本小委員会の西岡委員がSSC co-chair3名のうちの1名(2024年1月~)に選ばれたことも報告された。

GEOTRACES Data Management Committee Meeting 2023について西岡委員から報告(資料4-2)

IDP2021 ver2 がリリースされたことが報告された。Ver1からのアップデートによって、大気エアロゾルのFeデータなどが大幅に増加している。ただし、全体の10%のサンプルが水温・塩分データが欠落していたり、5%のデータに栄養塩データがなかったりと、問題が残っているため、引き続き各国の窓口担当者を通じてデータの提出を催促していると報告があった。また、データの提出にあたっては、サイト名がないデータも散見されることから、日本からデータを提出する際にはその点注意が必要と報告された。

さらに、machine learning, data-assimilation models, prognostic models の3つを使ってWorld Ocean Atlasのようなデータセットプロダクト(The state estimate)をGEOTRACESで作って公開することを検討する議論が始まったことの報告があった。張委員長から、日本からもこのようなプロダクトの作成に関われる方がいらっしゃると思うので、数名推薦したいと発言があった。

S&I meeting 近藤委員より報告(資料4-3)

2023年9月に実施されたS&I meetingではGEOTRACES cookbook updateの編集や次回のIDPに向けたIntercalibration reportの審査の一部が実施されたことが報告された。また、これまで近藤委員がspeciationに関する審査やcookbook編集を担当していたが、2023年12月末での委員交代を機に2024年1月から別の方へ編集を引き継ぎしたことが報告された。

GEOTRACES GPpr16 航海(2025年に予定)について小畑委員より報告(資料4-4)

航海期間は、2025/6中旬-8月上旬を予定しているが、来年頭に予算が確定するまでは確定ではないことと、今年末に乗船のアンケートをとるかもしれないことが報告された。

(7) その他

鈴木委員より「海洋の代謝と栄養循環、特に地球温暖化の影響下での理解に焦点を当てた国際的な研究プログラムの構築を目指す取り組み」であるBioGEOSCAPESの立ち上げについて情報共有された。SCORのサポートのもと、2025年もしくは2026年までにプログラムの立ち上げを目指して事前準備を行なっている。

張委員長から当該プログラムに参画しそうな国は何か国かと質問があり、米国、フランス、中国、台湾、日本などの代表者と協議している、おそらくGEOTRACESと似たような国際連携になるのではないかと鈴木委員から回答があった。

以上